

【 教 育 講 演 】

歯冠修復と歯髄

10月18日（土）13：45～14：45

長崎大学歯学部小児科歯科学講座

教授 後 藤 讓 治

略 歴

東京都出身	
昭和38年	東京歯科大学卒業
昭和42年	東京歯科大学大学院卒業
昭和42年	東京歯科大学講師（小児歯科学講座）
昭和45～47年	カナダ国Western Ontario 大学客員助教授
昭和47年	東京歯科大学助教授
昭和58年	長崎大学歯学部教授（小児歯科学講座）

〔要 旨〕

小児歯科臨床において、乳歯並びに幼若永久歯の歯冠修復には種々の材料及び術式が用いられている。これらの歯冠修復にあたっては、通常歯質に対して切削を加える場合が多く、また歯冠修復に用いられる材料も歯髄に対して為害作用を及ぼすことが少なくない。したがって生活歯の歯冠修復にあたっては、歯質の下にある歯髄組織を無視することはできない。

そこで、「歯冠修復と歯髄」と題して、以下の項目に関して種々の実験結果をまじえて話を進めてゆきたい。

- 1) 窩洞形成と乳歯髄
- 2) 支台歯形成と乳歯髄
- 3) 乳歯補綴象牙質の形成速度
- 4) 偶発露髄と乳歯髄
- 5) スクリューピンと歯髄
- 6) 各種歯冠修復物と歯髄
- 7) 酸エッチングと歯髄
- 8) 間接歯髄覆單法と歯髄
- 9) Breaching と歯髄
- 10) 暫間間接歯髄覆單法と歯髄
- 11) そ の 他